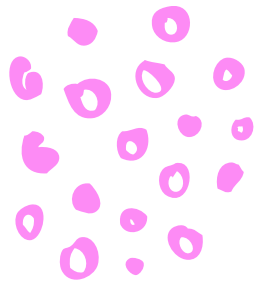


ゆりいか通信

第21号

令和8年1月



温かい飲み物から始まる声かけ

寒い日が続く、温かい飲み物の入ったカップを両手で包むように持ちながらひと息ついて、わが子が不登校だったころを思い出します。学校に行くことを無理強いしたくはないけれど、まったく起こさないのも気が引ける。生活のリズムが崩れることも心配で、どんな声の掛け方がよいのか、ずいぶん考えました。そうした試行錯誤の末に落ち着いたのが、「コーヒー淹れるけど、飲む？」という問いかけでした。

時計を見ながら頃合いをはかり、子どもの部屋の扉の前で、強すぎず弱すぎず、押し付けがましくならない口調を意識して声を掛けます。返事がなければ繰り返し、またしばらく時間を置いて同じことを尋ねます。「うんー」と返事が返ってくると、それだけで胸をなで下ろしました。「うんー」と返事があってもすぐに起きてくるとは限りません。先にコーヒーを注いで冷めてしまえば、待たせてしまったと感ずるかもしれない。そう思い、カップだけ用意しておきました。先にコーヒーを飲みながら、待つともなく過ごします。起きてくるかな。今日は無理かな、とほほ笑みながら待てるようになるまでには、ずいぶん時間がかかりました。出勤時間が迫る日は「コーヒーは用意してあるからね」とだけ声を掛けて家を出ていました。

温かい飲み物の時間は、夜にもありました。夕食後、家族がそれぞれ落ち着いたころ「お茶する？」と声を掛けるのが習慣になっていました。テレビを見ながらお茶をする日もあれば、「今日はテレビはいい」と言って、静かにお茶をする日もあります。そんなとき、子どもはぼつりぼつりと、迷いや不安を話し始めるのでした。

いつの間にか子どもたちは成長し、今は夫婦でお茶をする時間に変わりました。それでも、迷いながら言葉を選び、温かい飲み物を囲んで過ごしたあの時間は、かけがえのないものだ。たとえ寒い冬、カップは手のひらだけでなく、心もそっと温めてくれるのです。

恩庄 香織

Our Activities

マルシェ実行委員

募集中

ゆりいか研究会では、地域の朝マルシェに出店し、さまざまな出会いや学びの場をつくっています。次回2月のマルシェに向けて、企画を一緒に考え、当日も関わってくださる高校生・若者を募集しています。

「アイデアを出すのが好き」「誰かの意見に『それいいやん』と言える」「友だちと何かやってみたい」——そんな気持ちで若者が集まるのが楽しみです。参加は、来るときに無理のない形で来ていただくだけで大丈夫です。地域の中で人と関わりながら、自分のアイデアが形になる体験をしてみたい高校生がいれば、ぜひご紹介ください。



フラツペ

【保護者・支援者向け】

12月のフラツペでは、「自分を大切にすること」をテーマに取り上げ、学びと交流の時間を持ちました。自己肯定感や、支援の場面で大切にしたい「ケアとセラピー」の視点についてレジュメをもとに共有しながら参加者それぞれが日頃の関わりや自身の思いを振り返りました。

特に印象的だったのは、子どもや若者を支えるためには、まず周りの大人や支援者自身が自分を大切にすることの重要であるということ。参加者同士の語りの中から感じられたことです。「うでなければならぬい」という思い込みを少し緩めることで、関わりが楽になることもある、そういった気づきを分かち合える温かく深い時間となりました。

不登校のお友だち

ゆりいか研究会では、新たに「不登校のお友だち」プロジェクトを本格的に始動します。不登校の子どもが増える中、その周りで友だちとして寄り添い、支え続けている子ども・若者の存在も増えています。友だちのことを思いながら、自分自身の学校生活や将来とも向き合う——そんな葛藤を抱える「不登校の子のお友だち」に光を当てる取り組みです。

3月15日（土）午後、青少年活動センター中会議室にて、トイイベントの開催を予定しています。当日は、実際に「お友だち」として不登校の友人を支えてきたスタッフや、不登校を経験した当事者、学校の中で子どもたちを支えてきた養護教諭を中心に、それぞれの立場から思いを語り合います。まもなく広報を開始しますので、ぜひ注目ください。



Upcoming Events

1/18
(日)

◆ フラッペ勉強会・交流会

1月は、「選挙」がテーマです。どのように伝えればよいのか考えてみましょう。

2/8
(日)

♥ 朝市マルシェ

西陣の公園で行われる朝市に出店します。現在、お手伝いをしてくれる若者を募集中。

2/14
(土)

♥ わいわいギャザリング

カリンバをさわってみたり、ボードゲームをしたりして過ごしましょう。

2/15
(日)

◆ フラッペ勉強会・交流会

2月は、「ゆるりお話し会」です。良かったらお気軽にご参加ください。



ゆりいか研究会

- ★ 教職員・若者支援者対象
- ◆ 保護者・若者支援者対象
- ♥ 高校生年代の若者対象

いずれも詳細はゆりいか研究会ウェブサイトをご覧ください。



謹んで新春のお喜びを

申し上げます

旧年中は、私たちがゆりいか研究会の活動に温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。一昨年春より新体制での活動を開始し、多くの方々に支えられながら一歩一歩前進することができました。

これまで、社会や学校現場における不登校理解の促進のための勉強会、保護者や支援者の皆さまとのつながりを深める活動を展開してまいりました。

これもひとえに、皆さまのご理解とご協力のおかげです。

これからも、子どもたちの心豊かな未来を共に築いていけるよう、より一層努力してまいります。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまにとって幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

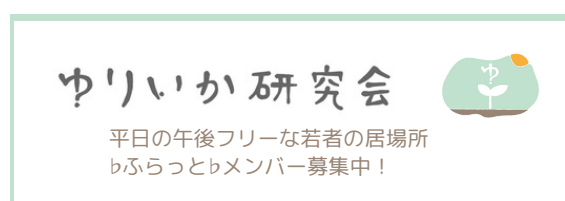
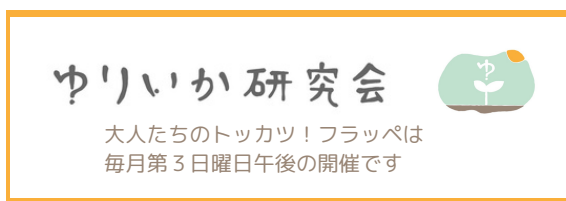
ゆりいか研究会 一同



Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（順不同）



杉本さま、宮坂 修平さま、T.OGAWAさま

クラウドファンディングおよびその他の形で協賛・寄付をしていただいたみなさまに心より感謝申し上げます。campfire community におきまして引き続きクラウドファンディングを受け付けております。

また協賛広告や直接の寄付も受け付けております。

関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひお声がけください。



Webサイトリニューアルのお知らせ（予告）

ゆりいか研究会のWebサイトは、活動の広がりに合わせて少しずつ内容を追加してきました。その結果、情報が分かりにくくなっている部分もあり、現在、サイト全体の整理と改編を進めています。

新体制での活動開始から2年を迎えるこのタイミングで、

「カリンバ体験」や「不登校のお友だち」プロジェクトなど、現在の活動が伝わりやすい構成に見直す予定です。準備が整い次第、改めてご案内します。

《連続小説》



金鶏鳥

宮美遊

幼少期 (十八)

ふと見上げるとビワの実が目に入った。小屋の屋根を越すほどの大木になったビワの木は、垣根の上から道にはみ出して、その先には美味しそうな実をつけていた。うまそうなビワにそそられて、苗籠を降ろしてビワの木に登った。太い枝の二股で体を安定させて（ようけなっとなる）

とビワに手を伸ばし、一つ取っては皮を剥いた。

「うまい、甘い」

美味しさのあまり、次から次へと手を伸ばした。

一方、田んぼの中では待ちくたびれた弥之助が

（信男は、苗を取りに行っただけやのに遅い！ 田植様が手止めで、立って待ってくれとるのに）

と苛立っていた。ちょうどそのとき、田んぼの横の道をブラブラと竜太が歩いてきたので、

「竜太、信男と会わなかったか？」と尋ねた。

「のぶちゃんならビワの木に登っ

とった」

竜太が答えた。それを聞いた弥之助は、腸の煮え繰り返る思いがした。それを抑えながら弥之助は竜太に頼んだ。

「遅いと思ったら・・・。すまんが急いで信男を呼んできてくれ」竜太が走って信男を呼びに行くと、まだ信男の姿はビワの木の上にあった。

「のぶちゃん、お父さんが呼んだるにー」

信男は苗のことを思い出した。

「しまった！」

焦って木から降りてくる信男に竜太が叫ぶ。

「遅いって怒っとったにー」

信男はさらに慌てて、地面に着くなり苗籠を担いで駆け出した。

田んぼでしびれを切らして待っている弥之助に、信男は息も荒いまま謝った。

「ごめん：なさい：、遅う：なつて：」

絵：落葉画廊

編集後記

年末年始、家族が集まり、独り立ちしはじめた子どもたちと話す時間が増えました。それぞれが自分の道を歩む姿を見ながら、不登校だった頃を振り返ることもありました。当時は先が見えず不安でいっぱいでしたが、悩み考え抜いた時間が、今の生活や選択の土台になっていると感じます。あの時間は決して無駄ではなく、必要な時間だったのだと思えるようになりました。今つらさの中にいる子どもたちが、いつか自分の時間を意味あるものとして受け止められるよう、周囲が寄り添い支える活動を続けていきたいと、年の始まりに思いました。（恩庄か）

おしらせ

★2月のフラッペは、「ゆるりお話し会」です。特にテーマを決めずいろいろお話ができればと思います。よろしければぜひご参加ください。

★令和7年12月号までのゆりいか通信をウェブサイトに掲載しました。関心おありの方にご紹介ください。